

令和6年度 市民の声一覧(下半期公表)

受付月	分類	件名	市民の声	回答(対応)内容	回付先
10月	市民生活(くらし)	路線バス運転士不足について	高知の路線バスを利用させていただいた者です。高知でとさでん交通のバスが大幅な減便をしたというニュースを見ました。ご存知かと思いますが、さらに15年後には100人の運転士が不足してしまうそうです。現在は路線の再編や減便で済んでいます。これから時間が経つにつれて、主要路線も廃止され、代替交通が確保できなくなってしまうのはほぼ確実だと思います。とさでん交通の採用ページを見てみましたが、仕事内容の割に低待遇だと感じました。事業者だけではどうにもならない問題だと思いますので、今のうちに路線バス運転士の給料を大幅に上昇させ(年間100万円以上上げないと人は来ないと思います)、路線廃止を阻止できないでしょうか。予算はかかることは存じておりますが、代替交通を整備しても重い予算がかかるかと思うので、今から思い切った取り組みをしないと路線廃止は防げないと思います。どうかご検討いただけませんか。そして、可能であれば以下の質問にも答えて頂けると幸いです。 ①15年後の高知の公共交通はかなり厳しい状況にあると思いますが、代替交通を確保するめどは立っているのでしょうか。 ②予算の問題を含め、運転士の待遇改善はどの程度まで可能なのでしょうか。 ③運転士不足の根本的な改善は給料の上昇しかないと考えておりますが、運転士不足の解消方法について高知市はどのような認識なのでしょうか？	「市民の声」にいただいたご意見につきまして、回答いたします。 ①15年後の高知の公共交通はかなり厳しい状況にあると思いますが、代替交通を確保するめどは立っているのでしょうか。高知市においては、これまでとさでん交通などのバス事業者がバス路線を廃止した場合には、代替手段として、タクシー業界に依頼し「デマンド型乗合タクシー」により、地域公共交通の維持に努めてきたところです。しかし、公共交通における運転手不足は全国的な社会問題にまで発展しており、とさでん交通の試算によると、5年後には乗務員数は半分になると想定されています。このため、本市では今年度から、交通事業者や市民・利用者の代表者、大学教授など学識経験者、道路管理者等を構成員とする有識者会議「高知市地域公共交通会議リ・デザイン分科会」を設置し、真に持続可能な地域公共交通のあり方について検討を始めています。 ②予算の問題を含め、運転士の待遇改善はどの程度まで可能なのでしょうか。深刻な運転手不足から、とさでん交通では、2014年の発足以来初めてとなる給料のベースアップを、昨年12月と今年4月に実施し、今後におきましても、人材確保のため、継続した処遇改善を実施していくとお聞きしています。高知市におきましても、とさでん交通など関係者の方々と共に、今後の支援に向けた協議を実施しているところです。 ③運転士不足の根本的な改善は給料の上昇しかないと考えておりますが、運転士不足の解消方法について、高知市はどのような認識なのでしょうか。とさでん交通におきましても、こうした慢性的な運転手不足に対応するため、今年度から新たに、高知県内のバス会社の合同説明会におけるバス運転体験の実施や、高校生を対象とした会社説明会を開催するほか、社員一律のベースアップの連年実施や、大型二種免許取得への支援を継続するなど、さまざまな運転手の確保策を講じています。また、高知県では、「バス運転士等確保支援事業費補助」として、県外からUターン等する方に対し事業者が支給する移住支援金等を補助する対応を行っています。高知市では、現在のところ、具体的な解決策を見出すには至っておりませんが、国の動向の情報収集や他都市へのヒアリングの実施のほか、前述した「高知市地域公共交通会議リ・デザイン分科会」において、とさでん交通をはじめ、高知県や利用者代表の方々とともに、運転手の確保に繋がる支援策を検討している状況です。以上になります。今後とも、ご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。	交通戦略課
11月	市民生活(くらし)	バス路線について	私は視覚に障がいを持つ者です。週4回程度、〇〇バス停からとさでん交通のバスを利用していました。令和6年10月1日のバス時刻の改定により、〇〇バス停を通過するバス便が大幅に減り、今まで利用していた昼間の便がなくなりました。そのため、バス便のない時間帯の外出では、電車通りまで徒歩で移動して電車もしくはバスを利用することとなりましたが、電車通りまでの間の歩道は狭いうえに傾斜もあり、また、学生の自転車の通行が多く、視覚に障がいのある私にとっては、危険と事故への不安を強く感じています。私のように目の不自由な者にとって安全に移動できるバス路線の減便により、大変不自由な生活を強いられることになっています。障がい者やお年寄りの生活基盤や安全の確保のため、路線を一部元に戻していただくよう、高知市から事業者に対して、市民からの意見を反映していただくよう協議・ご指導をしていただくことを強く要望します。	本市の地域公共交通を担うとさでん交通の路線バス利用者は、自家用車の普及や人口減少、生活スタイルの変化等により減少の一途を辿っており、年間利用者数は、平成20年度の479万人から令和5年度の246万人まで半減しています。また、慢性的な運転手不足から路線廃止や減便を余儀なくされ、路線数は10年で3分の1にまで減っています。こうした厳しい状況から、運行会社である「とさでん交通株式会社」は運転手の数に応じたバス路線の再編を本年10月に実施しており、ご指摘のありましたバス停につきましても大幅な減便が実施されたとお聞きしています。今回いただいたご意見につきまして、とさでん交通に共有するとともに、本市としましても、バス運転手の確保に向け取り組んでまいります。ご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。	交通戦略課
11月	市民生活(くらし)	高知南IC付近の渋滞について	高知東部自動車道の開通により、高知南インターチェンジ付近の渋滞は首都高速道路並みです。救急車が立ち往生することもよく見かけます。鏡川大橋の渋滞は相変わらずですが、潮江弘化台連絡橋の構想は白紙になったのでしょうか。高知市のような地方都市でここまで渋滞するのは、公共交通機関の乏しい沖縄くらいではないでしょうか。これほどコンパクトな街で、「車がないとどこへも行けない」のはおかしな話だと思うのは私だけでしょうか。カーボンニュートラルのためにも、とさでんだけでなく、市バスなどの参入は無理なのでしょうか。	お問い合わせの「潮江弘化台連絡橋の構想」につきましては、高知県が策定した高知港湾湾計画に臨港道路浦戸湾横断線として位置づけられているもので、現在も計画は変更されていないと聞いております。この計画の詳細につきましては、高知県港湾・海岸課にお問い合わせいただきますようお願いいたします。 さて、本市の地域公共交通を担うとさでん交通は、自家用車の普及や人口減少、生活スタイルの変化等により、路線バスの利用者数は減少の一途を辿り、路線バスの年間利用者数は、平成20年度の479万人から令和5年度の246万人まで半減しています。また、慢性的な運転手不足から路線廃止や減便を余儀なくされ、路線数は10年で1/3にまで減っています。こうした状況に対応するため、高知市においては、公共交通の需要喚起策として、「電車・バス無料デー」や「電車・バス等ワンコインデー」「電車・バス定期券半額キャンペーン」など公共交通を利用していただくきっかけづくりとなる取組を行っています。しかしながら、とさでん交通の試算によると、10年後には運転手の数が現在の1/3になることも示されるなど、運転手不足は全国的な社会問題にまで発展していることから、ご提案いただいた市バスの参入につきましては、現段階では厳しいものと考えております。ご指摘の通り公共交通を充実させることは、渋滞緩和にもつながる効果的な方法と考えておりますので、本市としましては、市民の皆様に公共交通をもっと利用していただくために、公共交通のサービス向上や利用促進に取り組むとともに、路線バスを充実させるための方策についても引き続き検討してまいります。回答は以上になります。今後とも、ご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。	交通戦略課 都市計画課
12月	市民生活(くらし)	「あかるいまち」の表紙について	いつも高知市の様々な情報を届けてくださる「あかるいまち」を楽しみにしています。2024年12月号の表紙は「指令室から現場まで」と題して消防の職員さんが登場されていて、とても頼もしい印象です。その一方で、消防という仕事が「男性の職場」という印象も強く受けました。実際には女性の職員さんも活躍されていますし、これからは女性の方々にこうした分野にもどんどん飛び込んでいただく必要があるのではないのでしょうか。そうした時に、『消防は「男性」の仕事』という先入観を払しょくしていくことは重要だと考えます。今後は消防の分野で頑張る女性職員さんにも光を当てて紹介していただきたいと思います。	2024年12月号の表紙は、新たに稼働した高知・土佐消防指令センターの役割を知らせることや、緊張感をもって24時間対応している指令員の活動にスポットを当てた特集記事への関心を喚起することを目的に制作したものです。ご指摘いただきましたとおり、本市消防局では多くの女性消防士が活躍しており、本市としましても消防は「男の仕事」という先入観を払拭していくことは、消防職員を目指す女性を増加させる取組を推進していくうえで、非常に重要であると考えております。日ごろから「あかるいまち」を楽しみにされているとのことですので、ご存知かと思いますが、2023年12月号では、女性消防士の活躍を特集し、表紙にも起用したところでございます。引き続き、市民の皆様に興味・関心を持っていただけるよう、各号季節や紙面の内容を踏まえた上で訴求力を意識した表紙や、本市から伝えたい情報を盛り込んだ紙面製作を行ってまいります。	広聴広報課 消防局総務課
1月	市民生活(くらし)	高知市広報に各業界の地震対応を載せてほしい	南海トラフ地震が起きたときに備えて各業界がどのような準備をされているのか、「あかるいまち」に毎号連載していただきたく思います。市民として知りたいところです。一応の目安として地震学者は「2038年前後」と数字をあげる方がいます。今後10年余り続けていけば、市民の心構えを広げられ、それなりの役に立つのではないのでしょうか。思いつくまま幾つかあげてみると、上水道、下水道、消防署、警察署、ごみ収集・処理、遺体処理、学校・保育所、自衛隊など行政担当の諸分野、医療、血液センター、薬局、ガス(都市ガス・プロパンガス)、コンビニ、スーパーマーケット、農協、漁協、食品卸、食品小売り、外食産業、宿泊関係、バス・鉄道・航空、土木関係(復旧・再建)、車関係、燃料関係、スマホ・コンピューター関係、衣料関係、電気製品、電力、金融、放送、新聞など多いです。仮に毎号1ページを充てれば、通常のお知らせの幾つかが載せられなくなりますが、厳選してスペースを作り出してください。広報担当者に取材・執筆の余力がないのなら、街の情報誌に書いている元新聞記者に依頼するのも一つの手です。表紙も例外とせず、より簡素にしてよろしいと思います。	高知市広報「あかるいまち」は、高知市からのお知らせやイベント情報を市民の皆様にお届けすることを目的に、毎月1回、市内全戸へ配布させていただいております。また、より親しみをもって「毎月読みたいくなる広報紙」を目指し、定期的な内容の見直しやリニューアル等も行っているところです。 今回、要望者様からご意見をいただきましたとおり、南海トラフ地震の発生確率が今後30年以内に80パーセント程度まで引き上げられ、本市といたしましても南海トラフ地震に関する情報を紙面に掲載することは、防災の観点からも非常に重要であると考えております。この度のご意見も参考にさせていただきながら、引き続き、市民の皆様が必要とする情報を盛り込んだ紙面づくりに取り組んでまいります。なお、防災に関する情報につきましては、高知市公式LINE(ライン)」のほか、高知シティエフエムラジオでの放送(1日2回程度)など、様々な方法で広報に努めていますので、ぜひご参照ください。	広聴広報課 防災政策課